

阿岐のまほろば

Vol. 37

古代の工房跡発見！

～安芸国府に関連も!?～

だいじめん いせき さいじょうちようさいじょう
大地面遺跡(西条町西条)



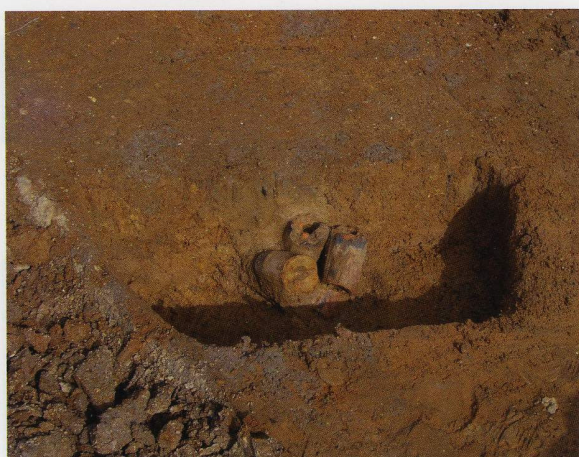
大型の掘立柱建物跡

大地面遺跡は、西条駅の北、500 mほどの所にある弥生時代から鎌倉時代の複合遺跡です。市街地の北側にそびえる竜王山の南麓のなだらかな南向きの斜面に立地しています。南東約500 mには史跡安芸国分寺跡があり、大地面遺跡を中心とした約1.5 kmの範囲には、安芸国分寺周辺遺跡や青谷1号遺跡、平田遺跡、鷺田遺跡、是石遺跡など、奈良時代から平安時代前期の遺跡が多数見つかっています。

以前からこの地域は、東広島市内で最も多くの

奈良・平安時代の遺跡が分布していることで知られていましたが、これまでは、史跡安芸国分寺跡と深い関連があると考えられてきました。唯一、大地面遺跡の西方500 mほどのところにある青谷1号遺跡は、官衙跡などで見られる円面硯などの遺物を出土していることから郡衙などの役所に関連する遺跡ではないかと指摘されていました。

大地面遺跡の発掘調査では、調査区の東端から直径1 m前後の大型の柱穴を持つ掘立柱建物跡が1棟見つかりました。柱穴は、隅の丸い四角い



柱穴から出土した羽口

形に掘られており、大きなもので一辺 1.2 m ほどもありましたが、これは、市内で見つかる柱穴の中でも最大級の大きさです。柱穴は全部で 13 基見つかり、^{けたゆき}桁行（長軸のこと）5 間（柱の間が 5 あること）、^{はりま}梁間（短軸のこと）2 間の建物であったことがわかりました。大きさは桁行で約 12 m、梁間で約 5.8 m もあります。

このような建物跡は、国府などの官衙の中心的建物に付属する、^{わきどの}脇殿、^{ふくや}或いは副屋と呼ばれる建物によく見られる形の建物です。

今回見つかった建物跡は、残念ながら政庁の正殿に並んで建っていた建物跡ではなく、役所などに付属した工房を構成する建物のひとつだったと考えられます。

建物跡の西側の窪地からは、多量の炭とともに、鍛冶や鋳物の^{はぐち}鑄造に使う羽口と呼ばれる土製の送風口や金属を溶かした時に出る^{スラグ}（スラグ）と呼ばれるカスが数多く出土しました。中には、鉄などを溶かすための炉の壁の一部も含まれており、炉跡などの本体やその構造を示す遺構こそ見つかりませんでしたが、この建物の近くで、鍛冶や鋳造が行なわれていたことが明らかになりました。

羽口やスラグに混じって、須恵器や土師器も若干出土しており、この工房が操業していた時期が 8 世紀後半から 9 世紀前半頃の時期であったことも明らかになっています。

この時代は、国分寺が造営されて、最も華やかだった時期で、それは同時に律令国家の最盛期に

重なります。

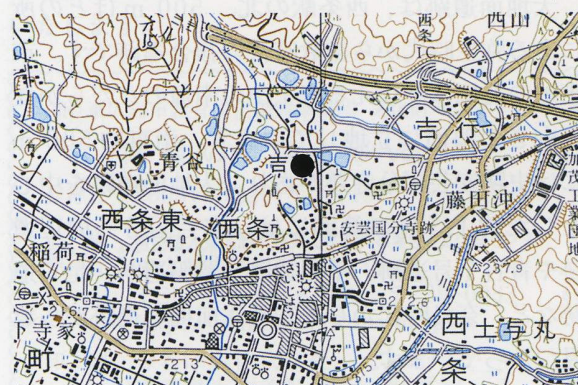
史跡安芸国分寺跡と距離的には近い大地面遺跡ですが、見つかった建物跡の向き（主軸）が、国分寺の主軸と異なること、大規模な官営工房の一部と考えられること、官衙的な遺跡であると推定されている青谷 1 号遺跡とも近いこと、周辺が安芸地域有数の奈良・平安時代の遺跡の密集地であることなどから、直接国分寺と関係する遺跡ではなく、幻の安芸国府と関係する遺跡である可能性が出てきました。

国府は、奈良時代の安芸国や備後国などの国の中心だったところで、現在でいえば県庁に当たる施設です。国府には長官（守）として中央から貴族が派遣され、他にも多くの役人が働いていました。

安芸国府は、現在まで遺跡が見つかっておらず、西条盆地にあったという説と安芸郡府中町にあったという説の 2 つの説があります。10 世紀以降の平安時代には安芸郡府中町にあったことが確認されていますが、奈良時代の安芸国府は未だに謎のままなのです。

西条説では、JR 西条駅前周辺が有力な候補地でしたが、西条駅前の大規模な区画整理に伴って調査した四日市遺跡からは奈良時代の遺構はまったく検出できませんでした。

今回の大地面遺跡の発掘調査の成果は、この地区を安芸国府跡の有力な候補地のひとつに押し上げたことでしょう。今後、この地区からどのような遺跡が見つかるか、とても楽しみです。（吉野）



大地面遺跡位置図 (1:50,000)

古代

中世

近世

近・現代

弥生時代の住まいを発見



竪穴住居跡作業状況

西本5号遺跡は、JR西高屋駅から北へ約400mの高屋町杵原に位置し、西側にある龍王山から派生した低丘陵の東端にあたり、その丘陵上を利用して集落を形成しています。眼下には、杵原川の形成する沖積地を一望できます。発掘調査は、ボーダフォン携帯無線基地局建設事業に伴って、平成18年4月に実施しました。

調査の結果、弥生時代の竪穴住居跡3軒、土坑1基、貯蔵穴2基などを検出しました。遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、砥石、台石などが出土しました。

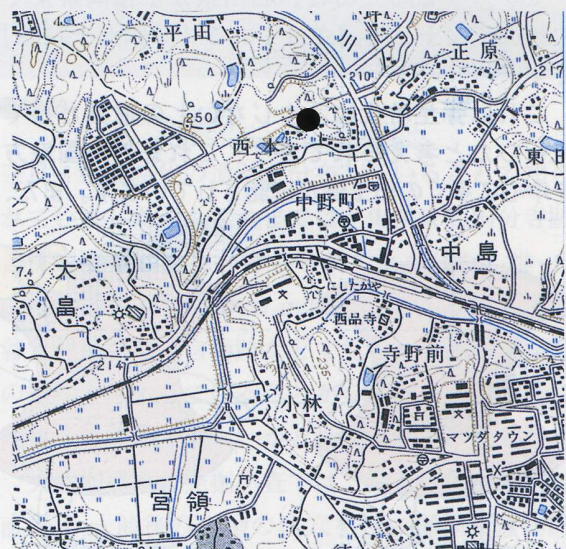
このように本遺跡で検出された遺構は、時期が不明なものを除きほぼ弥生時代後期後半のもの

です。また、西本5号遺跡のある丘陵は、西本遺跡群として従来から周知されているところであり、隣接する西側の丘陵には西本1号遺跡、西本2号遺跡その西南の丘陵に西本3・4号遺跡、西本6号遺跡、西本7号遺跡があります。これまでの調査結果から西本遺跡群の立地する丘陵上には、弥生時代中期末～中世の複合遺跡の存在が広く認識されており、弥生時代後期を中心とした墳墓や住居跡が多数検出されています。本遺跡も西本遺跡群が位置する丘陵上に形成された集落の一部と位置付けられ、当該時期の弥生時代から古墳時代の集落を考える上で貴重な資料を得ることができたといえます。

(植田)



竪穴住居跡完掘状況



西本5号遺跡位置図(1:25,000)

ホームページがオープンしました!!



財団法人東広島市教育文化振興事業団
文化財センター

コンテンツ

トップページ

最新情報

発掘調査速報

ひがしひろしま歴史散歩

刊行物

リンク

財団法人東広島市教育文化振興事業団
文化財センター

当文化財センターが実施する発掘調査の状況や、最新情報などを随時更新中です。どうぞ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

文化財センターのマスコットキャラクター

アキノマホロバ

このたび、東広島市教育文化振興事業団文化財センターでは、ホームページを開設しました。

今後、次の内容で当文化財センターの各種情報を発信してまいります。このホームページが、東広島市民の皆様をはじめ、全国の皆様に広く愛されるホームページとなるよう努めてまいります。どうぞご期待ください。

ホームページアドレス <http://akinomahoroba.or.jp>

◎主な内容

- ・最新情報
(現地説明会や講演会などの情報を事前にお知らせします。)
- ・発掘調査速報
(発掘調査の進行状況を速報としてお届けします。)
- ・ひがしひろしま歴史散歩
(東広島市の歴史についてご紹介します。)
- ・刊行物 (刊行物のご案内)
- ・リンク集

新マスコット誕生のおしらせ

当文化財センターにマスコットキャラクターが誕生しました。その名も『フンちゃん』と『ファンちゃん』。

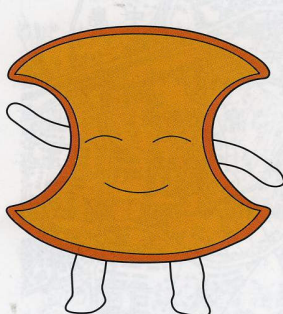
モチーフとしたのは、石川県から福岡県までの範囲で出土が確認されている「分銅形土製品」です。

これは弥生時代に「まじない」の道具として流行したと考えられており、これまで中国地方を中心に多くの出土例が確認されています。また、

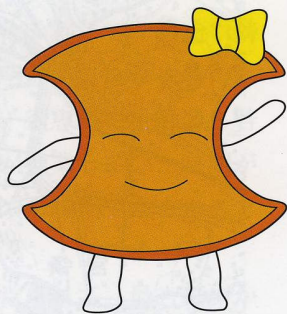
東広島市内においても、当センター等の調査によって数多く出土しております。

当文化財センターでは、東広島市にも縁深いこの個性的な遺物にちなみ、本来の分銅形土製品に手や足・リボンといったアレンジを加え、マスコットキャラクターといたしました。

今後、『阿岐のまほろば』をはじめ、様々な場面で登場します。どうぞ末永くよろしくお願いいたします。



フンちゃん



ファンちゃん

(財) 東広島市教育文化振興事業団 文化財センター報

阿岐のまほろば Vol. 37

発行日 2008(平成20)年2月19日

編集 財団法人東広島市教育文化振興事業団/文化財センター
発行 東広島市西条町馬木541-1
TEL 082-425-3880 〒739-0033
<http://akinomahoroba.or.jp>

印刷 今谷印刷株式会社
東広島市西条町寺家6608番地